

佳作

未来の私へ

秋田県美郷町立美郷中学校

3年 金子 美桜

未来の私、あなたは今、何をしていますか？ これは、15歳の私が未来のあなたへ宛てて書いた作文です。

覚えていますか？ 15歳の私が将来何になりたいと思っていたかを。医療関係に携わる人間になりたいと思っていたはずです。そう思うのには以下のような理由があったからです。小学校に上がるまでは決して体が丈夫とはいえず、何度となく入退院を繰り返しました。小学校に上がってから数回の入院と、入院とまではいかないまでも、なりたくもないさまざまな疾病から外来通院は欠かせず、もしかしたらそれはまだ続いていませんか？ 中でも忘れられないものは、滲出性中耳炎の繰り返しで小学校を卒業するまでに3回もの手術をしたこと。スポ少でやっていたバスケットでは数回の捻挫をし、6年生で靱帯断裂により初めてのギプス装着、しばらく松葉杖生活を余儀なくされたこと。低身長診断から今以上大きくなれないと言われてしまったことなどなど……まだまだ数え上げればきりが無いほど、幼い頃から病院とは縁が切れない生活を送ってきたのです。

どの時も体がつらいだけでなく、気持ちが、心が苦しくて、とても悔しい気持ちになったのを覚えています。そんな時、私に手を差し伸べてくれ、勇気をくれたのは、家族であり、友人であり、学校の先生であり、そして何より医師、看護師、病院に勤めている医療従事者の方たちでした。松葉杖生活中のことを例に挙げると、家族は忙しい中、私のために一生懸命動き回ってくれました。学校の送迎、お風呂の手伝い、あらゆるサポートです。友人は、自分の荷物もあるにもかかわらず私の荷物も持ってくれたり、車椅子を押してくれたり、私のペースに合わせて行動を共にしてくれました。この時ほど、友情というものを大切だと感じたことはありませんでした。学校の先生は、私の安全を第一に考えてくれました。おかげで最後まで皆と一緒に学校生活を送ることができました。医療従事者の方々には言うまでもなく感謝したものです。治療だけでなく受診のたびに、当たり前のようにされた優しい声をかけていただくだけで、励まされ、勇気が湧き、落ち込んでいた気持ちが一転、乗り越えられるんだということを知りました。私がここまでこられたのは、家族、友人、学校の先生、私を取り巻くたくさんの人たち、医療従事者の方々の協力と支えがあったからだと思うのです。

家族、友人を大事にする。そして病気で困っている方たちの体と心の支えになれるような医療に携わる人間になる、というのが今の私が思い描いている未来の自分像です。

私は受験生になり、勉強漬けの毎日、進路についてなど不安なことや嫌なことがたくさんあります。でも、皆同じ気持ちなんだと思います。これまでの決して順風満帆とはいえないたくさんの経験をとおして気付いたことは、仲間との助け合いです。中学校を卒業してからは、自分で決めたそれぞれの違う道を歩み始めます。勉強する内容、経験することは皆バラバラだと思います。ですが、歩む道は違っていても「頑張る」ということは、どの道でも皆、一緒なはずです。分からないところは教え合うなどしていけば、きっとどんなことでも乗り越えていくことができると思います。時には誰かの力も必要なこともあるかもしれません。その時は、人の力も借り、一人で悩まず誰かに頼ることも必要です。逆に誰かが私を必要とした時は力を貸し助け合って頑張っていきたいと思います。

今までの私は、何かに挫折するとすぐに諦めてしまいがちでした。これからは、未来の自分像に向かって何事においても、諦めずに最後まで頑張っていきたいと思います。未来のあなた、周りの人たちはあなたのことを常に応援してくれているはずです。その期待に応えられるように、そして何より自分のためにも何事にも臆することなく、チャレンジしていきましょう。今はまだ家族、友人、周りの人たちに支えてもらっている現状ですが、その支えがあるから頑張っていられます。いつか私が支えてあげられる番が来たら、その時は今まで支えてもらった以上に支えてあげてください。恩返しをしてください。

今の私、未来のあなた、今までいろいろな人たちに助けてもらい、支えてもらったことを決して忘れずに、自分の夢に向かって精いっぱい努力をしてください。そして、その成果を家族や友人に胸を張って報告できるような人間になってください。今も、未来もそれは決して楽なことではないと思います。時には息を抜きながら、けれど、決めたことから逃げずに、一生懸命に頑張る人間でありたいと願います。

未来のあなた、寄り道をしたって構わない。あなたが今、目標とする人間像に向かって突き進み、後悔のない人生を送ってください。